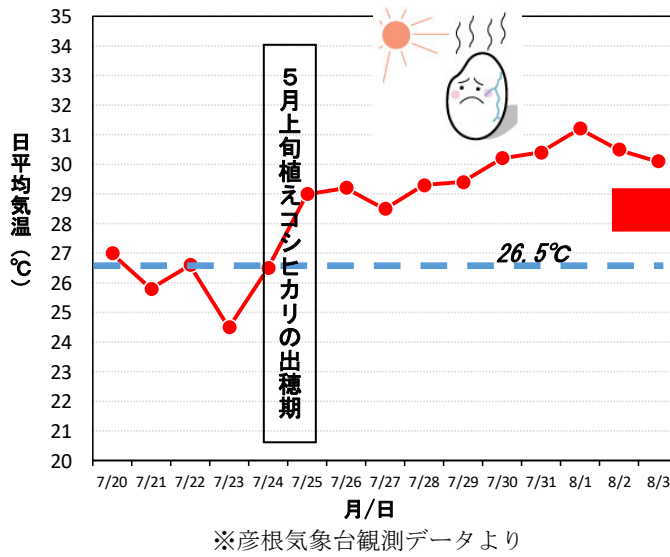


まだ間に合う！ 水稻高温対策

令和4年8月5日

1. 今年の出穂期以降の日平均気温（コシヒカリ）



- 出穂後 20 日間の日平均気温の平均値が 26.5°C を超えると、玄米に白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。
- 今後も高温が続くと 26.5°C を大きく超えることが予想できます。



白未熟粒が発生した玄米



胴割れした玄米 (グレインスコーフ使用)

2. 今後の対策

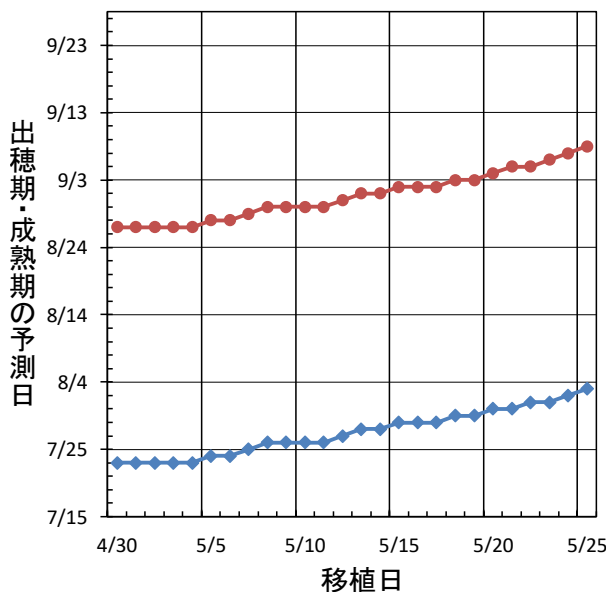
(1) 登熟期の葉色維持

(コシヒカリ・日本晴・秋の詩)

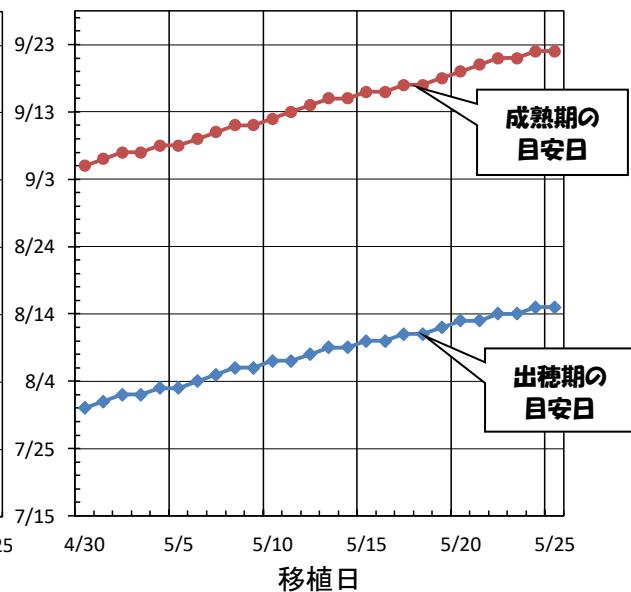
- 穂揃期(出穂 3~4 日後)の葉色が葉色板 3.5~4 より淡くならないようにしましょう。
- そのためには、出穂 4 日前(走り穂の頃)までの葉色が葉色板 3.5 を下回っている場合は、葉色維持のための追肥を 1~1.5 kg N/10 a 施用しましょう。
- 下のグラフの出穂期を目安に、追肥の施用が遅れないようにしましょう。

※環境こだわり栽培では化学肥料窒素成分の上限 4 kg/10a に注意してください。
 ※出穂 4 日前を過ぎている場合は、食味を落とすため追肥を施用しないでください。
 ※いもち病や倒伏の発生が懸念される場合は施用しないでください。

「コシヒカリ」の出穂期と成熟期の目安日



「日本晴」の出穂期と成熟期の目安日



注) 栽培管理支援情報サービス (SAKUMO) による 8 月 2 日時点の出穂期・成熟期を予測 (近江八幡市安土町大中)。近江八幡市安土町より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる。

(2) 登熟期の水管理

- 登熟期に水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行いましょう。
- 水管理は水深3cm~5cmの浅水管理を行い、3~4日に1回程度は入水するよう、こまめな水管理を行いましょう。(深水にして長期間、入水しない水管理はやめましょう。)

※用水利用にあたっては、かけ流しや深水管理等、必要以上の取水にならないようにしましょう。

